

- 三鷹市では「ゼロカーボンシティ」を宣言し、温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指している。
- このため、福島県矢吹町及び山形県白鷹町とそれぞれ協定を締結し、両町が所有する森林を整備することにより、森林が有するCO2の吸収価値を創出し、三鷹市が排出するCO2の埋め合わせを行うカーボンオフセット事業を実施した。

□ 事業内容

姉妹町等と連携した森林の整備及び保全

（福島県矢吹町）

- ・ 植栽木の成長を阻害する雑草木の下刈り
- ・ 路網整備
- ・ 植樹活動（三鷹市小学生による）

（山形県白鷹町）

- ・ 伐採跡地の再造林
- ・ 植栽木の成長を阻害する雑草木の下刈り

【事業費】8,948千円（全額譲与税（三鷹市））

【実績】整備面積 約5.3ha

二酸化炭素吸収量 17.42トン

□ 取組の背景

三鷹市では、令和4年12月に「ゼロカーボンシティ」を宣言し、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにすることを目指している。この取組の一つとして、森林環境譲与税を活用して、矢吹町及び白鷹町とそれぞれ協定を締結し、両町が所有する森林の整備及び保全等を行っている。



（矢吹町での植樹活動）



（白鷹町での再造林）

□ 工夫・留意した点

- ・ 姉妹町である矢吹町と旧ホークスサミット（同じ「鷹」のつく5つの市と町）をきっかけにした交流がある白鷹町で事業を行っている。
- ・ 多種の山野草が自生している自然公園や郷土を代表するシンボリック存在の山を整備場所とすることで、森林整備の必要性や意義をより多くの方に伝えられるよう工夫している。

□ 取組の効果

- ・ 矢吹町と白鷹町の森林整備に寄与することができた。
- ・ 得られたCO2吸収量について、森林の機能を具体化したものとして、イベントにおける周知など普及啓発として活用した。
- ・ 森林整備区域を活用した林業体験や教育活動など、三鷹市と矢吹町・白鷹町における環境に関する交流事業の実施を検討している。

◇ 基礎データ

①令和7年度譲与額：23,675千円		②私有林人工林面積（※1）：0ha	
③林野率（※1）：0.1%	④人口（※2）：195,391人	⑤林業就業者数（※2）：3人	

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

公立保育園において多摩産材を使用した家具を導入し、子どもたちが日常的に木の温もりや香りに触れられる保育環境を作り、環境意識の育成を図る。

□ 事業内容

公共施設への多摩産材利用促進プロジェクト事業

区市町村が整備する施設において、多摩産材を利用した木製什器等の整備を支援することにより、木の良さや木の価値を広く発信し、多摩産材等の利用拡大を図る。

【補 助 率】補助対象経費の2分の1以内

【事 業 費】9,000千円（うち譲与税4,500千円）

【実 績】7,749千円（うち譲与税3,874千円）

□ 取組の背景

公立保育園においては、子どもたちが安心して過ごせる保育環境の整備が求められている。木製家具については、これまで、限られた予算の中で新規導入が難しい状況があった。今回、当該事業により、木製家具を導入することで、温かみや肌触りなどを感じられる木材の特性を活かした快適な保育環境向上を図るとともに、子どもたちが日常的に木に親しみ、自然や環境への関心を高め、環境意識の育成につなげることを目的としている。



（中央保育園 椅子）



（あけぼの保育園 ままごと台）



（上連雀保育園 絵本棚）

□ 工夫・留意した点

- 家具の導入に当たっては、安全性や品質に配慮された多摩産材を活用した家具を導入した。
- 家具は使用するクラスの児童の体型に合った、奥行き、高さで製作した。
- 多摩産材を使用した家具を単に設置するだけでなく、「この家具はどこの木を使って作られているのか」などを伝えて、子どもたちが木材や森林について関心を持てるよう、日々の保育の中で活用していくことを予定している。

□ 取組の効果

- 子どもたちが触ったり匂いを感じたりと木の素材に興味を持って積極的に触れている。
- 木製の家具は肌当たりも柔らかい。特に椅子は座りやすいため、子どもたちがリラックスして座っている。また、それぞれの体型に合った家具になっているため、子どもの正しい姿勢づくりにも有効である。

◇ 基礎データ

①令和7年度譲与額：23,675千円		②私有林人工林面積（※1）：0ha
③林野率（※1）：0.1%	④人口（※2）：195,391人	⑤林業就業者数（※2）：3人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より